

第3回 住民説明会 質疑応答の要旨

(質問・意見) 計画建物の高さは？

(回答) 一番高いところで今の GL から 8m50cm を予定している (北海道)。

(質問・意見) 既存観察舎の高さは？

(回答) 頂点は同じぐらいの高さになるかと思っている (北海道)。

(質問・意見) 駐車場がものすごく圧縮されている。この施設は観光のためではなく環境学習のためだという認識ではいるが、前回よりも駐車場が大幅に圧縮された今回の建物配置案については疑問が残る。

(回答) 大規模に駐車場を増やす予定であった前回案よりも駐車場面積が大きく減っているのは否定できないが、線の引き方を工夫して現状に比べて駐車台数は若干増加している。縁石で区別するわけではなく、線を引くだけとし、冬場はフレキシブルに使用できるように考えている。今考えられる中で提案させて頂いたので理解してもらいたい (環境省)。

(質問・意見) 現状の駐車場の台数で利用に支障があったことはあるのか？

(回答) 2月に一番混雑して、バスが連なることがあるということが時々あるということを知っている、バス駐車場は減らさないように工夫したところである (環境省)。

(質問・意見) 付け替える排水路は、全て明渠なのか？

(回答) 駐車場の下になる部分だけ、ボックスカルバートとなり、残りは明渠である (環境省)。

(質問・意見) 現在の施設はハクチョウへの餌付けで集客しているような印象を受けるが、餌付けによって汚れている現状がある。環境省と網走市の餌付けへの考え方をお聞かせ願いたい。餌付けを禁止する場合、今後白鳥公園の機能が大きく損なわれるのでは？地元はどのように考えているのか？

(回答) 人間による野鳥の餌付けについては、鳥獣保護法の基本方針というのが決められていて、希少種の保護増殖以外ではむやみにやらない方がいいということが書かれている。ただ、悩ましいところがあって、野鳥に餌をやるというのが、昔から日本人の文化として定着しているところもあり、法律でバツサリ「禁止」されているものではないが、一方で、野生動物への過度な接近、生態の攪乱が起きているという批判もある。

野生動物なので出来るだけ野生の状態で暮らしていけるようにするのが基本であり、餌をやらないですむのであればそれを目指していったほうが良い。このため、前回の説明会では、段階的に検討していきたいと説明させて頂いた。環境省として、ハクチョウ、ガンカ

モに対する餌付けで心配しているのは、糞の問題である。身近に鳥を観察できる環境は維持しつつ、「鳥が糞を落とすところ」と「人が歩くところ」は明確に分かれるような工夫・取り組みが必要だと感じている。それをどうすれば実現できるかというところは地域の実情があることなので、皆さんのご意見を聞きながら決めていきたい（環境省）。

（質問・意見）今回の修正案に反対しているわけではないが、どうせ施設を整備するなら町内が納得するようにやってほしい。（アヤメの再生地保全のため、駐車場の拡張をやめるという修正案について）環境学習のための施設とは言え、観光だって全部無視できるものではないはず。整備にあたっての前提として観光客のことを考えなければならない部分もあるだろう。

（回答）環境学習としての施設だが、せっかくこの地区に来てもらったのだから風景見てパッと帰るのではなく、湊沸湖のことをさらに詳しく知って帰って頂き、普通の観光客が湊沸湖のファンになってくれたり、自然とふれあうことができる場になってくれたりすれば良いなと思っている（環境省）。

（質問・意見）原生花園内に 20 数年住んでいる。原生花園を取り巻く環境は変化している。水辺の植物が減っている。アヤメも減っている。建物を建てるのはいいが、今後植物や鳥の保全活動にどうつなげているかということをお願いしたい。

（回答）後々の保全活動にどのようにつなげていくのか、まさに建物に魂を入れていく作業だと思うが、現在は、どの場所にどのように建てるのかが決められないとキックオフできないというところがあって、そこまでの検討に至っていない。地元で活発に活動されている人もたくさんいるので、皆さんの御協力を得ながら盛り上げていきたいと考えている。また、環境の変化については、昔と今の湊沸湖の比較を展示でも出していきたい（環境省）。

（質問・意見）市は協議会を設けて、湊沸湖の利用と保全に関するビジョンを出すと言いつつ、未だに出ない。ビジョンがあって基本計画があり、施設整備に繋がってくるはずであり、モノを作ることを議論していることのような気がする。

（回答）拠点施設を整備しながらそのビジョンに基づいた取り組みが連動してくると考えている（環境省）。

（回答）ビジョンの関係は、ラムサール条約登録湿地にされたときに「湊沸湖及び周辺域の環境保全推進協議会」を立ち上げ、基本構想になるようなビジョンを策定しようとして検討を進めてきた。地域の住民の意見を聞いて取りまとめたものがあるが、完全にできていない。環境の保全だけでなく、ワイズユース、学習、早急に形を固めるのではなく、もう少し煮詰めてそのビジョンを策定しようと考えている。大まかな概要はできているが、最終的な結論を含めた部分ではできていないというのが現状である。

今回、建設する施設はもちろんそのビジョンに含まれており、同時並行で環境省に要望し、

整備計画を進めて頂いてきている（網走市）。

（質問・意見）原生花園の場合、昔から「原生」ということで「手を出さな」、「自然のままにしておけ」ということが最初に言われた。しかし、全く手を出さなかったら、どんどん変化していった。手を出さないことが環境保護にはならない。環境って人が上手に手を入れて守ってあげないと守れない状況である。それを上手にやっていくという知恵が必要。もっと積極的に自然に関わっていくということが住民も行政も必要ではないか。

（回答）来月名古屋で COP10 がある。自然保護に関する大きな会議だが、そこで日本政府として打ち出そうとしているのは「SATOYAMA イニシアティブ」という言葉である。原生的な自然環境をまずしっかり守っていく、一方で人が手をかけることによって守られている自然については、持続的な利用を通して自然を残していこうというのが、このイニシアティブの考え方であり、日本やアジアはそうした地域が多く、それを世界に広げていきたい。本当の低層湿原等については手を入れないで守っていきたいが、今回の予定地もある意味では里山的な環境であって、ポニーが食べることによって残された植生がある（環境省）。

（質問・意見）今回の修正で案は、ヒオウギアヤメの再生地への影響を大幅に軽減したことは評価できる。これからは、この施設をどのように管理・運営していくのかを議論すべき。その中で、隣接することとなる現在の観察舎については、観察をする場所としては全く利用されていない。この観察舎をもっと有効に利用できないのか。

（回答）観察舎は観光施設であり、雪が降ったり、雨が降ったりした際に、2階にあがってみて観察してもらう施設として考えている。ゆえに、現段階では学習型の体験施設という利用は考えていない。（網走市）

（質問・意見）観察舎の2階は野鳥観察に最適な場所なので、スコープ及び教育的な図鑑等を3台置いてほしい。

（回答）いまこの時点で確約はできない。参考にさせてもらいたい（網走市）。

（質問・意見）新しく作る施設の展示（展望）室に人が立ったときの高さはどれぐらいか？

（回答）計画施設の1階床高は地面から50cm～1m程度の高さか、新しい建物の2階には展望室は設けない。現状の野鳥観察舎の展望室（2階）の足元の高さは3m程度ではないか？（北海道）

（質問・意見）修正前の場所よりも修正案の方がずっとよいと思っている。天井が高いが、この施設に2階は設けないのか？

（回答）天井が高いのは展示で生かしたいと思っているから。管理用には屋根裏部屋を設ける予定である（環境省）。

（質問・意見） 8.5mは高いのでは？屋根はもう少し低くてもよいのではないか？

（回答）屋根の高さの頂点は8.5mになるが、建物の幅が約20mある。切り妻なので、積雪のことも考えると、屋根にも一定の勾配が必要なのでその結果8.5mになる（北海道）。

（質問・意見）高さを利用する、高いところは下から見るとなかなかよく見えない。まわりから見て回る通路があれば高いところに展示しても側によって近くに見られる。そういう工夫もできるのではないか？

（回答）展示の方法として、下からだけでなく逆に上から見下ろすような展示の方法もあると思うが、今回の場合はそこまでしていない。それをすると高さがどんどん上がっていく可能性もある。（環境省）

（質問・意見）設計がかなり進んでいるという印象だが、測量・ボーリング。は、建物の位置が変わることでやり直しをしないといけないのではないか？

（回答）現行の成果で十分に設計には使える。（北海道）。

（質問・意見）変更はどこまで可能なのか？基本構想があつて基本設計があるわけなので、環境省が基本構想を変更しない限り、実施設計段階での変更は出来ないのではないか。（回答）今の進捗状況は基本設計まで終わっている。説明会での御意見をお聞きしながら作成している。基本構想はコンセプトを示したものなのでそれ自体を修正するというよりは基本設計に説明会でのやりとりを加えながら実施設計に取り組んでいく（環境省）。

（質問・意見）この建物をここに建てていいのかということについて、地域の賛成の声を聞くかどうかということが大事なのではないか？前回の案と違って、駐車場が圧縮されてそれが将来問題にならないのか？

（質問・意見）白鳥公園の整備の一環で作られた駐車場が、この他にもう15台分ある。今は地元の人が網を置いたり、作業用の車両を置いたりしているが、それを本来の目的で使えばいいのではないか。

（回答）こちらの駐車場も、冬季は除雪して利用していると聞いている。一般の車両も駐められるが、冬場の応急的な利用になると思う（環境省）。

（質問・意見）既存観察舎の駐車場はいつも満車になるという状況ではない。ただ、あの場所は観察会を年に数回やるということもあって、車だけでなく、人が集まる場所にもなる。広場のようなものがあるとよりよい。駐車場に固定しないで、広場としてスペースをとってもらいたい。

（回答）縁石をもうけないようにするなどしてフレキシブルに対応できるようにしたい（環境省）。

（質問・意見）道を挟んで、トイレがあるが、その前のスペースを駐車場として使えないのか？

（回答）今回の環境省の予算では手が出ない。（環境省）

（質問・意見）今の駐車場レイアウトも正直駐車しやすいとは言えない。道道と駐車場の間にある歩道は必要か？

（回答）それについては、管理しているところに事前に協議した、駐車場利用者と道道利用者の交通安全の観点から歩道部分は出来るだけ残してほしいとのことであった（北海道）。

（質問・意見）この建物が建つことによって、駐車場台数が1台増えるとの説明があったが、施設ができることによって、滞在時間が長くなるということもあるから夏場はよいとしても冬場はパンク状態になるのではないか？

（質問・意見）屈斜路湖の砂湯は、完全に道道を横断して、利用している。向かいの市有地（ゲートボール場）もほとんど使われていないことから、駐車場とすることは十分に検討に値するのではないか。

（回答）砂湯では、駐車場が全て道路を挟んで湖畔の反対側にあることから、利用者の多いシーズンには利用者の道路横断が増え、交通安全上の問題から対応が求められた経緯がある。メインの駐車場は同一敷地内とするが、通常のシーズンは今回計画する駐車場だけで十分ではないかと考えている（環境省）。

（質問・意見）当初の段階では、駐車場と下水道の整備は網走市にお願いするというようになっていたのではないか？

（回答）それは北浜でやるということが決まる前の話で、環境省で建物を、網走市で外構関係をとのことであったが、すでにインフラ整備がなされている北浜で整備することになったので、現時点では一体的に環境省がやるということになった（環境省）。

（確認）ヒオウギアヤメの再生地の改変を最小限にする観点から大きな修正案をお示しした。本日の説明会では、駐車場が小さくなりすぎることへのご批判はあったが、この修正

案について反対というご意見はなかったように見受けられる。この配置で進めていってよろしいか？（環境省）

（回答）異議なしの声多数（反対の意見はなし）

（質問・意見）道にお聞きしたいが、前の案と比べて建物位置がどの程度変わっているか？
改めてボーリング調査をする必要があるのか？

（回答）建物の位置はおよそ20m程度移動することになると思う。5箇所ボーリング調査をしている。排水路を境に元々建てようとしたところに4箇所、野鳥観察舎側で1箇所調査している。前回の調査結果を活用して、できると考えている。測量は基本設計に耐える測量しかしていないので、実施設計で改めての測量は行う予定（北海道）。

（質問・意見）用地については、網走市が北海道から占用許可を取得している範囲内で建てるのか？

（回答）環境省・北海道・網走市で協議して行う（環境省）。

（質問・意見）建物東側デッキから湖側の部分はどのような利用か？

（回答）水鳥が上陸して休憩する場所であるし、また浸食防止のためにいじらない方がいいと考えている（環境省）。

（確認）年度内に説明会を設けたいと考えているので、その際にご協力お願いしたい。（環境省）

（質問・意見）次回の説明会の際には、管理・運営の問題、展示の内容を中心に議論したい。それだけの詳しい資料も提示してほしい。

（質問・意見）湊沸湖の現況をわかってほしい。その上で環境をよくしてほしい。

（質問・意見）協議会をつくる上では、行政機関のメンバーだけでなく、もっと広い参加を呼びかけないと、地域やある組織が孤立する関係で、一般の利用者や運営に参加するような人が参加できない。そういう仕組みにはしないでほしい。皆が参加できるような協議会の枠組みができれば、地域の負担も軽くなるし、利用も本来の目的により近いものとなる。そういう利用の形態について、次の集まりでは議論してほしい。

（回答）我々としても地域をよく知っている地元の意見を大切にしたい。いろんなアドバイスを受けたいと思っている（環境省）。